

本論文は

世界経済評論 2021 年 5/6 月号

(2021 年 5 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店



コロナ禍が問う 「真のリーダーシップ」とは？

一般社団法人 ウィメンズ・エンパワーメント・イン・ファッション創設者・名誉会長

尾原 蓉子

コロナ・パンデミックの突然の襲来から1年。命を脅かす恐怖の日々を生きてきたこの間、世界的に明確になったことが3つある。

- ①生命と生活、人と心の繋がりの大切さ
- ②生活のコンタクトレスとデジタル化
- ③ビジョンと動員力・革新力あるリーダー

第1の“人が生きること”の尊さの再認識、第2のデジタル化（ネット購買やリモートワーク）は日本でも進んでいる。ただ、性別や人種を問わず、人を敬意をもって公平・平等に扱う責任を国や企業は果していない。最近取り組みが加速しているSDGsも、地球環境以外に、人間的あるいは倫理的（エシカル）なサステナビリティを重視している。

さて第3のリーダーシップの問題である。

“ビジョンと動員力・革新力あるリーダー”の有無が、コロナ感染拡大初期あるいはロックダウン以降の明暗を分けた。残念ながら日本は、この巨大危機をバネに大きく変革・変容する機会を逃しつつある。Covid-19の抑え込みはまさしく戦争であるが、日本は感染拡大が緩やかだったためか、国も企業も“非常事態”への真の危機感を欠き、中途半端な施策で後手後手にまわっている。“有事”なのに、“平時”の縦割り行政や手続き論から抜け出せない、何よりも再度襲来し得る危機を含む将来へ向けてのビジョンが示されないことが決定的だ。

唐突だが、このコロナ危機にうまく対処した国のリーダーに女性が多いことが話題になった。ニュージーランド、台湾、フィンランド…。ドイツのメルケル首相がロックダウンを国民に伝

えた昨年3月の演説は、胸に迫るものだった。生活実感ももちエンパシー豊かなリーダーが、手続き論や政治論争を超えて、人間的アクションを勇敢かつ速やかに取ったからだ。ビジネスの世界でも、米国で今年1月に開催された小売業大会では、講師の40%が女性であったが、性別とは無関係に、突然襲った未曾有の危機に、現場を率先指揮しながら物事の本質を見極め、深く思考した人たちが、「Forward Together 共に前進しよう」のテーマで熱く語った。これらのリーダーは、社員や顧客、すなわち血の通った人間を大事にし、前線（現場）の苦勞を共有し、よりよい未来をつくるため、資源（モノばかりでなく人の共感やデジタル技術）を最大限に生かした革新を起こしている。

日本の元首相の女性蔑視発言が、世界的注目と非難を浴びている。OECD ジェンダーギャップ指数が153カ国中121位の日本。米国の新政権閣僚のほぼ半数が女性、フォーチュン500社CEOの41人が女性、あるいは女性活躍度合がさらに高い国々に比べ、何とも悲しい実態だ。

しかし、リーダーシップの問題は、この類の男女の問題をはるかに超えた先にある。「#わかまえない女」のハッシュタグが生み出した「フェア」への潮流が日本に風穴を開け、「忖度」や「筋書き通りの審議」を重視する旧態的な社会慣習やメンタリティから脱皮させることを期待する。まさしくこのような変革をおこす「真のリーダー」が1日も早く日本にも誕生することを、心から願っている。

（おはら ようこ）